

左京区大原では、近年、有機農業等環境にやさしい農業を志向する若い新規参入者が増えており、この4月に地域農業の活性化を目的に「大原有機農業研究会」(32名)が発足しました。今年度は、有機栽培における野菜栽培、病虫害防除、土壌肥料等の勉強会を2ヶ月毎に開催しています。普及センターでは、関係機関とともに「有機の里大原」を目指す研究会の活動を支援しています。

第2回 普及指導員による現地指導



第3回 間藤教授「土壌肥料」の講演

大原有機農業研究会 (現在 会員32名) <里の駅大原> 赤しそ畑を背景に

「有機の里大原」 を目指す!

再生紙を使用しています

R100
古紙/リブ配合率100%再生紙を使用

大原野地域活性化の取組



大原野マルシェ

西京区大原野では、地域の住民と行政が連携して「**なんやかんや『大原野』推進協議会**」を設置し、さまざまな地域づくり活動に取り組んでいます。



大原野の
ロゴマーク

農産物等直売所「マルシェ大原野」(平成28年7月オープン)は、大原野の新鮮、安心、高品質な農産物や加工品を販売しています。普及センターは、京都市西部農業振興センターとともに直売所のオープンに向けて、支援を行いました。また、「小さな経営革新チャレンジ支援事業」を活用し、チラシの作成と新聞折込をすることで周辺住民へ直売所の周知が進み、またラベルを作成することで、お客さんに生産者のアピールができました。



「祝」のほ場

「酒づくり部会」では、大原野産酒米「祝」を100%使用した酒づくりに取り組んでいます。普及センターは、この「祝」の品質向上を今年度の調査研究計画に位置づけ、酒づくり部会員に対し、肥培管理等の技術支援を行い、品質向上に取り組んでいます。

京都乙訓農業改良普及センター

組織づくり
ものづくり・販路づくり
(安心・安全づくり)

勧修寺樹園地組合ブドウ部会 (京都市山科区)



小袋に入れたブドウを配ってPR

勧修寺樹園地組合ブドウ部会は、部会員16名で、共同で観光農園(7戸)の運営や個人で直売をしています。消費者が好む美味しい大粒な高級ブドウを中心に栽培し、最盛期の8月~9月には各直売所に常連客が詰めかけ、ほとんどが直売で完売してしまいます。しかし、近年、極端に変化する気象の影響を受け、栽培しづらくなっているため、毎年、春と冬に研修会を開催し果実の着色不良対策などの技術の向上に取り組んでいます。また、変化する消費者の嗜好にも対応していくため、新品種を取り寄せて食味の評価会を開催して導入品種を探したり、さらに、「小さな経営革新チャレンジ支援事業」を利用して作成したキャラクターでPR活動にも積極的に取り組んでいます。



春の現地研修会



勧ちゃん

~交流電源不要のソーラー発電による黄色LED照明システム~ 露地ナスで害虫防除効果を検証中

ナス栽培では、黄色蛍光灯の終夜照明により害虫の行動を抑制する防除技術が確立し、管内では平成15年から利用されていますが、交流電源が必要なことから導入している農家が増えていないのが現状です。一方、近年、ソーラーパネル発電とバッテリー充電による黄色LED照明システムが開発されましたが、ナス栽培での効果検証は十分に行われていませんでした。

そこで、長岡京市のナス農家3名及びJA京都中央等と協力し、5月下旬から調査研究ほ場3箇所を設定し、オオタバコガやカスミカメムシの被害調査を行い防除効果を検証すると共に、照度調査も重ね、黄色蛍光灯と同様の減農薬防除の効果があるか検証しています。



ソーラーパネル設置

「ネギのシロイチモジヨトウ防除対策」(調査研究)

九条ネギ産地である伏見区淀地域では、近年、シロイチモジヨトウによる被害が増加しています。そこで農家や関係機関が連携して、ネギほ場延べ約10haにフェロモン剤「ヨトウコンーS」を設置し、交信かく乱による防除を行っています。今のところフェロモン剤設置区での捕獲成虫数が無設置区より少ない傾向があり、8月中旬から10月の多発時期の被害抑制効果を期待して、調査を継続中です。



フェロモントラップ

「京都援農隊」 とは!?

農作業は一時期に集中しがちで、
人手が足りずに困ってしまうことが度々あります。



こんな時「**京都援農隊**」を御活用ください。

この制度は、「**農業に興味がある**」「**農家の力になりたい**」方があらかじめ**京都援農隊**に登録し、農家から依頼を受けて農作業のお手伝いをする制度です。

京都乙訓地域ではこれまで、苗の定植やたけのこ畑のわら入れ、茶摘み等のお手伝いをしています。
「思った以上に作業が早く終わり、助かった」「援農隊に作業が楽しいと言ってもらい、うれしかった」等の声が依頼農家から寄せられています。仕事がかどるだけでなく、援農隊から元気をもらう農家も多いようです。

京都援農隊への依頼については普及センターまでお問い合わせください。京都援農隊の様子などはこちらをご覧ください。

<https://kyoto-ennoutai.net/>

～新鮮・安全・おいしい農作物を直接消費者へ～

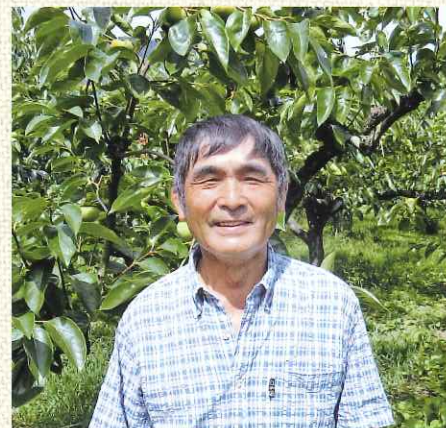
まつき よしあき
松木 吉昭さん(果樹:西京区)

今年度から京都乙訓地域農業士会の会長を務めている松木さんは、西京区大枝で、柿、タケノコ、その他露地野菜を栽培されています。また、都市近郊の利点を活かして、消費者へ直売しています。

地域では、青年農業士時代から、大枝西長町の青年後継者の中心となり、後継者組織である「西長洛柿クラブ」の運営に関わってこられました。

また、サルやイノシシ等の獣害対策では地域の先導的な役割を果たしてこられています。

大枝地区では、第二外環状道路建設に伴い、農業を取り巻く環境は大きく変化しましたが、「これからも消費者に喜んでもらえるよう、昔からの地域特産物である柿、タケノコを中心に新鮮・安全でおいしい農作物を栽培しながら、新たに多様な販売チャンネルを開拓していきたい」とおっしゃっています。

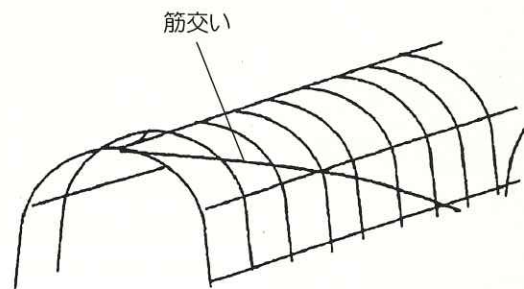


強風(台風対策)

台風(大雨)の対策は、日頃から準備を心掛けましょう。

【台風(大雨)前の対策】

- ①気象等の情報の収集(テレビ、ラジオ、スマートフォン等の天気予報や水位情報など)
- ②農業共済(施設園芸共済)への加入
- ③パイプハウスの補強等(ビニールの破れ等の確認、筋交い等の設置:右図)
- ④露地ほ場での管理(排水溝の点検、防風ネット等の設置)



設置図

【台風(大雨)後の対策】

- ①パイプハウスの補修等(破損箇所の修理、換気による室内の高温防止)
- ②露地ほ場での管理(排水の実施、液肥の葉面散布(500~1000倍)、銅剤等の薬剤散布)

詳しい対策方法は、京都府京都乙訓農業改良普及センターホームページ内の「積雪・強風対策マニュアル」をご覧ください。

昨年度の台風被害対策事業の実績

昨年(平成29年)、管内において台風18号、21号により作物の被害はもちろんのこと、資材や施設、機械の流失・破損などの被害があり、生産者の皆様には大変な御苦労があったことと思われます。そのような中、普及センターでは市町と協力し被害にあわれた生産者の方々に寄り添い、伴走する「農業者等復旧応援事業」を活用し、微力ながら皆様の復旧のお手伝いをさせていただきました。今年も被害にあわれた生産者の復旧をお手伝いしていますので、お気軽にお問い合わせください。

平成29年度 農業者等復旧応援事業実績(京都市、乙訓地域)

(単位:千円)

合計			うち、資材導入			うち、農地復旧			うち、施設復旧			うち、機械修繕		
件数	事業費	補助金	件数	事業費	補助金	件数	事業費	補助金	件数	事業費	補助金	件数	事業費	補助金
164	41,153	11,373	86	21,591	5,358	21	4,456	1,956	54	14,611	3,816	3	495	243

発行 京都府京都乙訓農業改良普及センター

〒615-0846 京都市右京区西京極徳大寺団子田町15 TEL 075-315-2906 FAX 075-315-2909
mail: kyoto-nokai@pref.kyoto.lg.jp HP: <http://www.pref.kyoto.jp/kyotootokuni-f/index.html>



QRコード